
東方白翼記

高坂 憂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方白翼記

【Nコード】

N4214BA

【作者名】

高坂 憂

【あらすじ】

突然、神の手により好きなキャラクターの体に転生させられた主人公。そのキャラの登場しない世界だと気づきどう生きていくのか。

プロローグ(前書き)

初投稿です。よろしくお願ひします。

プロローグ

「はぁ・・・退屈だな・・・」

彼は、最近の生活に満足していない。子供の頃は、夢や希望に満ち溢れていたが今ではそんなものが“現実”ではありえないものだと気付かされてしまい、つまらない惰性でダラダラとした生活を送っている。

一応大学は出たが、その後就職先が見つからずふてくされていたら半ば勘当気味に家から両親に追い出される始末、本当に救いのない人生である。

そんな彼の楽しみといえば、週刊誌で連載している漫画のコミックスが出るたびに買い込み、それを読む事とその世界に自分が行ったらなどといった中学生が考えそうなことを妄想するのが楽しみであり、日課となっている。

「・・・なんか、面白いことないかなあ・・・」

なんで、俺がこんなつまらない世界で生きなくちゃならないんだ、どこぞの野菜少年の世界や隙間妖怪がいる世界、王様がカードで戦う世界とかに生まれたかった。

そして、野菜少年の世界の妖怪のハーフの女の子と、いちやいやしたり隙間のところで蓬萊人の女の子とラブラブしたいなあ・・・

・・・話は聞かせてもらったよ、君の望みをかなえてあげようじやないか・・・

「つつつなんだっつ！！？どこからこえが聞こえてやがるんだ！？」

まあ、気にしない、気にしない・・・とりあえず今は寝ててよ・・・

そんな声が頭に響いたかとおもうと、彼の意識は闇に沈んでいった。

第1話と11話のプロローグその2（前書き）

こちらがメインのプロローグになります。

第1話という名のプロローグその2

ぞわ……ぞああ……

「んー？……よく寝た……？」

まてまてまてまて！？いま俺の声がやけに高くなかったか？おれの声は確かバスの域に入るか入らないかくらいの声だったはず、だがいま俺の口から聞こえてきたのはどう考えてもアルト、下手をすればソプラノくらいの声だったぞ！！？

「しかも、ここはどこだ！？」

さっきまで K にいたのにどこを見ても、木、木、木である。

「……木しかねえ、完全に森の中じゃねえか……」

……パラ……ヒラヒラヒラ……

ん？紙が降ってきた、これは……手紙？

やあ、これを見ているということは目覚めたようだね。早速だが君には違う世界に転生してもらった。まあ、いわゆるテンプレってやつだねwww……君の望みをすべてかなえたかったんだが、実は失敗してしまったんだよ。そのせいで君の姿は、君の大好きな漫画のヒロインのものとなっている。……よかつたねb

「……よかつたねbじゃないわあああああつ！！！！というか、そもそも好きなヒロインなんてたくさんいるんだが……」

まあ、あれだ・・・そのお詫びにだがそのヒロインのつかう武術と、そのための武器を君に用意してある。そしてそれを扱う知識もねww才能や戦闘センスはヒロインのものと変わらないが、君を送った世界にふさわしい能力を付加してある上に、気と魔力そしてその世界に存在している妖力を鍛えた分だけ増える体にしてあるから、そうそう負けることはないはずだよww

まあ、当然だろう、そのくらいはしてもらわないとこちらとしても納得がいかないからな。

能力はそのうち目覚めるとおもうから頑張つてねb・・・応援してるよwww

追伸、その体は君が心の底から死にたいと思わない限り死ねないようになつてるからね、年もとらないようにしてあるけど鍛えた分は成長するから頑張つてねノシシ

「結局、だれの姿になつているのか書いてねえじゃねえか!!」

これでは、なんと名乗ればいいのかわからない上にどんな武術を使えるようになっていのかわからない、見たところ周囲に 奴 が用意したという武器とやらも見当たらない。

とりあえず、今は川を探そう、そこで自分の顔を確認して武器も探さなければならぬ。幸い近くから川のせせらぎの様な音が聞こえているから、音のしている方向へ向かえばいいだろう。

森の中を少し歩くと、川が見えてきた、急いで河辺により覗き込むと、そこに映っていたのは、黒い髪をサイドポニーにしている真つ

白い肌をした美少女が映っていた、その顔はどう見ても、俺が愛してやまない魔法 生ネギ ! という漫画のヒロイン桜咲刹那の顔だった。

「・・・はあ？・・・まさかの、刹那か・・・」

ということとは、武器は夕凧、もしくは建御雷ということになるな、この世界がどんな世界かもわからない今、急いで探さなければ命が危ない。

「はあ・・・いったいどこに、武器があるっていつんだ？」

現在の自分の装備は、ネギ ! の中で刹那が幻想空間の中で着ていた、背中が大きく開いた烏族の戦闘衣装のみである。こんな時に限って敵が現れたりするのがテンプレであるからして早く、自分の身を守るための武器を見つけなければならない。

・・・ガサ・・・ガササササ・・・

「あー、今の思考は、フラグだったか!？」

川の向こう側の茂みの中で何かがうごめいているようだ、自分の知る肉食動物や、未知なる化け物でなければ問題ないが、そういった類のものだった場合、絶体絶命のピンチになってしまう。願わくば敵になりうるものでないことを祈りながら茂みの中から それが出てくるのを待つ。

「・・・グルル・・・ガアアアアアアアアアアアッ!・・・」

願いは届かず、化け物の類であったようである。 それ はどう小

さく見積もつても体の全長が4m以上ある上に下半身が蜘蛛の体をしていて、上半身が牛の様な見た目をしている漫画などで時々登場する分かり易い妖怪の典型のような姿をしていたのである。しかもその妖怪はどう考えてもこちらを捕食対象としてしか見ていないような眼をしている上によほど腹がすいていたのか、ありえない量の涎を垂らしているではないか。

「っはあああ!!?いきなりこんなんが出てくのかよ!?!無理無理無理無理!!?」

こんなん武器があつたとしても勝てるわけない、そう思い逃走を選択し妖怪が出てきたのとは反対側の茂みに飛び込んだ。本来の自分の体ではない桜咲刹那の体であるが故に元々の自分の体との差異に戸惑いながらも森の中を走っていく。その際、元々の体の時よりも圧倒的に早く動いている体に対しさすが、せつちゃんの体だと感心したり元々の自分の貧弱さに嘆いたりして現実逃避している。しかし一向に距離を離すことができずつかず離れずの位置をものすごいスピードで追いかけてくる妖怪から逃げるための逆転の手段がないものかと考えてみれば気付いたら森を抜けだしていた。しかし森を抜けだしたといつてもそこは、崖の上であるどうしたものか?

「・・・やつちまつたぜ・・・orz、ここからじゃどうあがいても逃げられないぜ、転生から数時間でDEAD・ENDなんていやすぎる・・・」

崖の上で立ち往生していると自分が来た森から先ほどの妖怪の雄叫びの様なものが聞こえる。

「・・・チツ!・・・もう追いついてきやがったか?」

「ウヲオオオオオオオオツ！飛べ！飛ぶんだ俺　　！はば
たけ　　俺の翼　　キヤアアアアアアアあつ！」

バサア！！　　パタパタパタ

この体にふさわしいような女の子っぽい悲鳴をあげたものの、見事に翼を使い飛ぶことに成功したようだ。とりあえず、今はこの感覚を忘れないように飛んでいようと思う。

しかし、こうやって念じることによって翼をだし飛ぶことができたということは、念じれば夕風などが手元に現れる可能性がある、試みに夕風もしくは建御雷がこの手に現れるよう念じてみる、すると手元に夕風が出現しその手に握られていた。

「　　これで武器の出し方もわかった　　後は、使いこなせるように要修行といったところだな。」

後は、この世界の特有の能力なんだが、これについてはそのうち目覚めると　手紙　に書いてあったため、今は気にしなくてもいいだろう。能力がこの世界特有のものであるため、これがわかればこの世界がどんな世界か判明するだろう。

「とりあえず、人のいるところを探さないと　　」

現在、俺は見知らぬ地に一人きりだ。このままでは、野垂れ死んでしまう可能性が大のため、なるべく早く人の住んでいる場所を見つける必要がある、そう思い純白の翼をはためかせ太陽の出ている方向へはばたいていったのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4214ba/>

東方白翼記

2012年1月11日02時48分発行